

□議員名：河野朋子

1 病院経営について

論点	病院事業についてはこれまで何度か収支計画の見直しがされているが、今回の改訂の理由は。
回答	1点目は予定より患者数が減り実績に合わせるため、2点目は資材等の値上がりと工事費の増額で、3点目は消費税増税による影響、4点目は新会計制度の導入である。

論点	今後の経営見通しはどうか。
回答	平成27年度から30年度までは減価償却の影響を特に受け、約1億5,000万の経常損失を生じる。今後地方債や借入金の返済などがあり、厳しい状況となる。10年後の現金残高を12億円に想定していたが、現在では6億円に想定している。

論点	グランドオープンまで1年しかない現在、正規の医師について何人確約できているのか。
回答	昨年度から非常勤医師を増やしている。 全国的に医師不足であり、30人の予算を確保して、30人までは何とかやっけていこう努力している。

論点	計画をつくり直すたびに下方修正され、これから先病院の経営が大変不安であるが、責任者である市長はどのように考えるのか。
回答	病院の努力に待つ。

2 埴生地区と市民病院の直通バスについて

論点	埴生公民館と市民病院の間で、市のマイクロバスを運行しているが、この運行実施に至る経緯は。
回答	埴生地区は公共交通機関の便が悪く、通院に時間がかかると患者さんから声が上がったので、市長部局にその実情を説明し、その後迅速に関係部署と調整をしてもらった。

論点	運行状況についてはどうか
回答	1月から月、水、金の1日1往復しているが、1月は、1運送当たり1人から2人、2月に入ってから平均2人から4人である。

論点	他地区にも同様の問題を抱えている地域があり、公平性から疑問を感じるが、どうか。
回答	埴生地区は、山陽小野田市内の陸の孤島のような位置づけであり、医療難民が発生している状態にあると病院局から私へ説明があった。ふたを開けてみると医療難民ではあっても、その数はごくわずかだったということを知った。

論点	成長戦略室の先駆けとも思われるが、もう少し多角的に検討や調整をし、長期的なことも含めて、対策が必要ではないか。
回答	成長戦略室は長期的なことはしない。長期的には企画や担当部局の病院局が考える。短期的に当面どうしたらいいのか、その解決策について関係部署を集めて知恵を絞り合うのが、成長戦略室の仕事である。

3 学校給食施設の建設について

論点	建設の試算について20億円や27億円、親子方式との差額は6億円や5億円と数字が違う。市民に正しい数値を示すべきではないか。
回答	建設費については資材の高騰や労務費の値上がりなどがあり、その分上積みしている。また、国の補助が出ることがわかり、差額が6億円から5億円になった。

論点	教育委員会として当初から選択肢になかった親子方式について、市政説明会で試算の説明をしていることに疑問を感じるがどうか。
回答	教育委員会は2センターがいいということだったが、最終的な結論を出すに当たって、財政的な理由で1センター方式は市民の大多数の賛成を得ることができるその案であると考えた。

論点	市民の大多数が1センターを望んでいると断言されたが、その根拠は。
回答	市民は何よりも財政の健全化を求めている。総会や行事等に出かけてすれ違う人、頑張ってくださいと言われる。給食施設をどういう形で建て、財源をどうするのかという問題だと思う。